

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床病態学 I	2 年次	必修	講義	1 単位（30時間）	小池 敦
授 業 概 要					
臨床医学総論で習得した基本的知識を前提として、疾病の成り立ち、症状、臨床検査、診断及び治療に関して探求する。臨床検査の実践においては、検査値を病態解析学的側面から検討していかなければならない。本講義において、その礎を築くことで様々な疾患に対応できる実力を身につける。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気と検査について、多角的に検討することができる。 ・ 各臨床検査の目的、意義、有用性について十分な説明ができる。 ・ 各種検査を理解し、その臨床検査値から病態解析を行うことができる。 					
実務経験のある教員					
小池 敦：病院での臨床経験を踏まえ、各種検査及び結果の解釈について概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	検査診断学総論 1：基準値と基準範囲、検査値の生理的変動				小林 浩二
2	検査診断学総論 2：カットオフ値、感度・特異度、ROC 曲線と検査特性				〃
3	疾病の原因、兆候、経過と転帰、及びそれに伴う患者心理について				小池 敦 ※
4	救急医療と緊急検査				〃
5	感染症と検査（院内感染含む）				〃
6	悪性腫瘍と検査				〃
7	遺伝性疾患と検査				〃
8	消化管系の疾患と検査、肝・胆・膵系の疾患と検査				〃
9	循環器系の疾患と検査				〃
10	腎・尿路系の疾患と検査、体液・電解質・酸-塩基平衡の疾患と検査				〃
11	呼吸器系の疾患と検査				〃
12	脳・神経（精神疾患・認知症含む）・筋肉系の疾患と検査				〃
13	血液・造血器系・出血性素因の疾患と検査				〃
14	内分泌系の疾患と検査、代謝・栄養異常の疾患と検査				〃
15	アレルギー性疾患・免疫病・膠原病と検査、重金属中毒と検査				〃
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義内容が広範囲になるので予習、復習を十分行い、基礎知識をしっかりと付けること。 ・ 不明な点は必ずその場で解決すること。 					
評 価 方 法					
定期試験（70%）及び月曜試験（30%）により評価する。遅刻や欠席等で月曜試験を実施しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は教育上不利益にならないよう考慮する。また、再試験は月曜試験の内容を合わせて出題し、これを評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 最新臨床検査学講座 臨床医学総論/臨床検査医学総論（著者：奈良信雄 出版：医歯薬出版株式会社）					
〔参考書〕 カラーアトラス ビジュアル臨床血液形態学（著者：平野正美 出版：南江堂） 異常値の出るメカニズム第7版（著者：河合忠 出版：医学書院） 臨床検査データブック2021-2022（監修：高久史麿 出版：医学書院） 配付資料					